

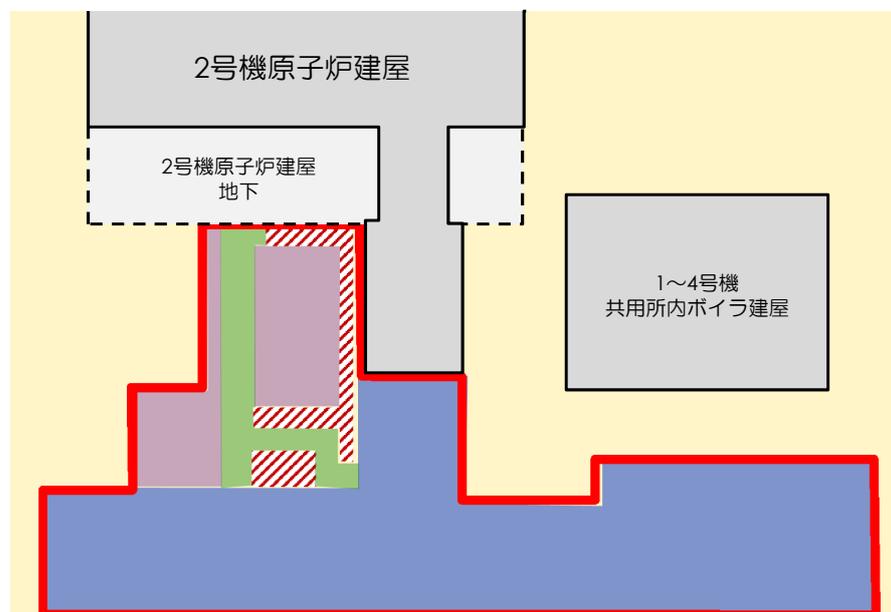
2号機周辺の路盤整備について

2016年3月31日
東京電力株式会社



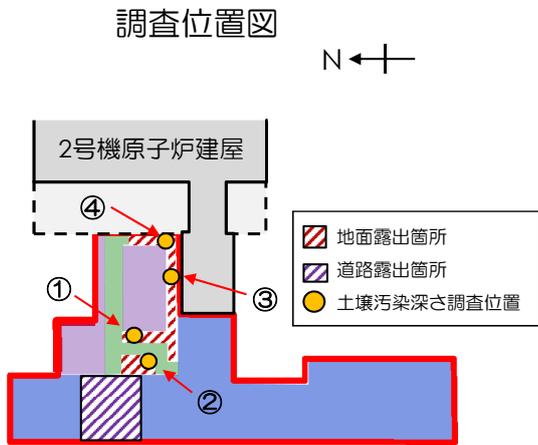
2号機周辺の路盤整備範囲

- 2号機の西側エリアは大型クレーンが走行できるよう路盤を整備する予定。
- 後戻りが無いよう整備前の土壌面やアスファルト舗装面の汚染状況を調査し、地表面の汚染低減対策と併せ、路盤整備を進めている。
- なお、1~4号機周辺の調査や対策については引き続き検討中。



2号機周辺の土壌の汚染調査結果

- 路盤整備にあたり、土壌の撤去の可否や深さを判断するため、土壌が露出している箇所で汚染調査を実施。
- 調査方法：地表面から10cmずつ深さ50cmまでハンドオーガで土壌を採取し測定・分析
- 調査結果：②及び④エリアの地表面から10～20cm程度に10～20 μ Sv/hの線量率が確認された。



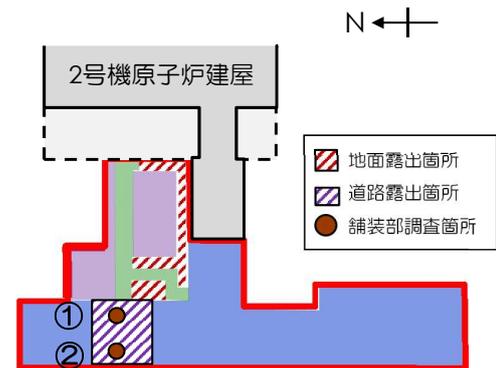
試料番号	深さ	採取日時	線量率 (μ Sv/h)
①	0-10cm	2016/2/16 10:45	1.8
	10-20cm	2016/2/16 10:50	B.G.
	20-30cm	2016/2/16 10:52	B.G.
	30-40cm	2016/2/16 10:55	B.G.
	40-50cm	2016/2/16 10:58	B.G.
②	0-10cm	2016/2/16 10:20	15
	10-20cm	2016/2/16 10:25	10
	20-30cm	2016/2/16 10:30	B.G.
	30-40cm	2016/2/16 10:35	B.G.
	40-50cm	2016/2/16 10:40	B.G.
③	0-10cm	2016/2/15 11:05	B.G.
	10-20cm	2016/2/15 11:10	B.G.
	20-30cm	2016/2/15 11:15	B.G.
	30-40cm	2016/2/15 11:20	B.G.
	40-50cm	埋設物(コンクリート)により採取不可能	
④	0-10cm	2016/2/15 10:35	20
	10-20cm	2016/2/15 10:40	3.5
	20-30cm	2016/2/15 10:45	B.G.
	30-40cm	2016/2/15 10:50	B.G.
	40-50cm	2016/2/15 10:55	B.G.

アスファルト舗装の汚染調査結果

- 調査方法：アスファルトカッターで30cm角の路面を切り出し、低線量エリアで表面、裏面、裏面の碎石の線量率を測定した。
- 調査結果：表面で6 μ Sv/hの線量率が確認され、裏面や碎石では汚染が確認されなかった。
- なお、今回の路盤整備対象エリアの既存地上面は土壌、アスファルト舗装、コンクリート土間等が存在。コンクリート土間等の汚染はアスファルト舗装の汚染調査で代表できると判断した。



切り出したアスファルト



調査位置図

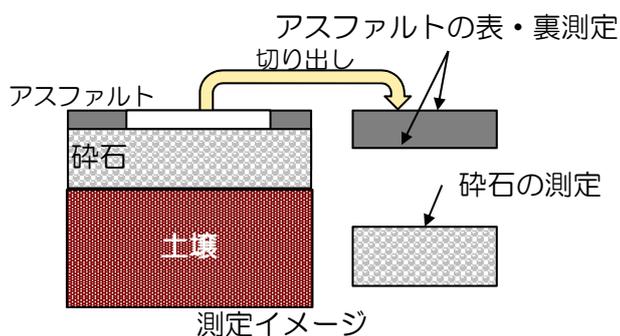


表 2号機西側道路アスファルト表面及び裏面線量率測定結果

	線量率 (μ Sv/h)	
	① (東側)	② (西側)
表面(道路面)	6.0	2.8
アスファルト裏面	B.G.	B.G.
アスファルト下碎石	B.G.	B.G.

測定日: 2016年2月19日
 測定器: 電離箱サーベイメータ
 B.G.: 1.5 μ Sv/h

汚染調査結果を踏まえた路盤整備

■作業線量低減を目的に実施している敷地内の除染・フェーシングによる土壌撤去深さは、土壌撤去とフェーシングを合わせて工事後の表面線量が $5\mu\text{Sv/h}$ 以下となるよう撤去深さを目標設定している。既工事部分の土壌撤去深さの実績は平均約13cm（約10～20cmの範囲）。

■今般の調査結果を踏まえ、路盤整備は次の通りとする。

●土壌部は、調査結果から10～20 $\mu\text{Sv/h}$ の表面線量が確認された、表層10～20cmの土壌を撤去する

●路盤整備範囲では、降雨による懸濁物（土砂等）の流出抑制のため、雨水を直接K排水路に導水する

➢路盤の仕様：砕石+アスファルト舗装+鋼板敷+L型擁壁(雨水返し)+U字側溝

なお、既存のアスファルト舗装やコンクリート土間等は、路盤整備による線量低減が見込めるため、汚染源除去は「不要」と判断した

路盤の仕様

■大型重機の走行のため1、3号機周辺と同様に「砕石+鋼板」で路盤を補強する

■上記に加え、雨水の汚染防止策として次を追加する

① 表層にアスファルト舗装を設置し雨水の浸透を防止する

② 道路西側に、L型擁壁（雨水返し）、U字側溝を設置しK排水路へ導水する

